

未来をめざせ豊かな営農。

# もえび

国営かんがい排水事業馬淵川沿岸地区内（岩手県一戸町）  
促成アスパラガス根株掘取り作業

特集

## 土地改良事業地区営農推進優良事例表彰 (全国表彰)受賞後の活動状況

本表彰は、国営土地改良事業地区の中で、事業実施を契機に生産対策等に積極的に取り組み、安定した営農の定着が進んでいる事例に対して表彰を行い、その成果を広く波及させることを目的として、平成4年度から農林水産省と全国土地改良事業団体連合会の共催により実施しています。

東北管内ではこれまで12団体が各賞を受賞しています。この度、表彰開始から17年が経過したことを契機に各県のご協力を頂き、昨年受賞した団体を除いた11団体の受賞後の活動状況をまとめましたので、紹介します。各団体とも受賞後も継続した活動を行っております。

### 【東北管内受賞団体】

受賞年度	表彰区分	地区名	受益農家集団名
平成5年度	構造改善局長賞	屏風山地区	JA つがるにしきた富苑ながいも部会
平成8年度	全土連会長賞	能代地区	JA 秋田やまもとキャベツ部会
平成9年度	全土連会長賞	屏風山地区	JA つがるにしきた富苑長ねぎ部会
平成10年度	構造改善局長賞	能代地区	久喜沢野菜生産出荷組合
平成11年度	全土連会長賞	五戸台地地区	栗ノ木営農組合
平成14年度	農村振興局長賞	山王海地区	土館地区農業生産組合
平成15年度	農林水産大臣賞	会津南部地区	谷地生産組合
平成16年度	農村振興局長賞	山元地区	夢いちご生産組合
平成17年度	農林水産大臣賞	猿ヶ石用水地区	農事組合法人 原体ファーム
平成18年度	全土連会長賞	いさわ南部地区	中沢土地利用生産組合
平成19年度	農林水産大臣賞	最上川下流・最上川下流沿岸地区	有限会社 米シスト庄内
平成20年度	全土連会長賞	寒河江川下流地区	日田観光さくらんぼ団地組合

注：受益農家集団名は平成21年度時点

# 受賞後の活動紹介

平成15年度  
農林水産  
大臣賞受賞

## 谷地生産組合（福島県会津坂下町） 国営かんがい排水事業（会津南部地区）

～水田直播栽培の面積拡大、飼料米の導入など  
「一集落一農場」営農を更に発展～

### ◆受賞時の活動

谷地生産組合は、国営かんがい排水事業等の実施を契機に「集落の農地は集落で守る」を基本理念とし、集落の全農家で組織する「営農改善組合」と連携し、集落内全ての水稲の基幹作業と転作作物の全作業を請け負う「一集落一農場」方式による効率的な営農組織として活動してきました。直播栽培の導入によるコスト低減

を図るとともに、転作作物には実需者ニーズが高く収益性のある小麦品種「アオバコムギ」や高齢者の労力が活用できるアスパラガスを導入しました。また、農協とタイアップして減農薬米の栽培や酪農家の堆肥、集落内の初殻を有効利用した「資源循環型農業」にも取り組みました。



水稲の湛水直播栽培



大型コンバインによる小麦の収穫



アスパラガスの導入

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

表彰を受けたことにより、組合への信頼感が高まり、周辺集落からの作業受託が増え、作付面積が増加しました。

そのため、労力軽減、作業分散のために一部水田に導入していた水稲直播栽培を拡大し、一層コスト低減を図っています。

小麦は、平成18年に実需者の要望により「アオバコムギ」から県奨励品種の「ゆきちから」に変更し、ブロックローテーションに取り組んでいましたが、小麦の栽培面積は、播種の遅れや雪腐れ病の発生などから、減少しました。

小麦に変わる作物を組合員で検討した結果、谷地地区では、米しかないという結論にいたり、平成21年度から飼料米（ふくひびき）の直播栽培に取り組んでいます。

営農状況	受賞時（平成14年）		現在（平成20年）	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	水稲	29.0	水稲	38.0
	小麦	6.7	(直播)	(9.0)
	アスパラガス	1.0	(特栽)	(5.2)
			小麦	2.0
			アスパラガス	1.0
構成員数	8戸		7戸	



作業分散のために導入した直播栽培（左）。移植栽培（右）より約10日後の収穫となる



新たに導入した飼料用米

### ◆今後の取組について

作業の一元化と効率化を図るために、乾燥調整施設を設置し、早場米の一部導入や飼料用米の定着に取り組み、作業の平準化、機械の効率利用を一層図っていく予定です。

また、農業研修の受け入れやワーキングホリデーを通じ、後継者の育成確保を担う組合として活動して行く予定です。

平成17年度  
農林水産  
大臣賞受賞

# 農事組合法人 <sup>はらたい</sup> 原体ファーム (岩手県奥州市)

## 国営かんがい排水事業 (猿ヶ石用水地区)

～生産から加工・販売まで、  
農業の6次産業化を目指した新たな取組～

### ◆受賞時の活動

国営かんがい排水事業及び関連事業により用水の安定供給、水田の大区画化・排水改良が図られたことを契機に、地域の農作業受託組織として(農)原体ファームを設立しました。集積した農地で水稲、大豆のブロックローテーションを確立し、余剰労力を活用したピーマン、ブルーベリー、タラノメ等、新規園芸作物を導入

しました。また、特別栽培米による水稲のブランド化、大豆の契約栽培など高品質化・有利販売を实践するほか、米を自家製粉し、米粉パンとして製造販売を行うことで地産地消に取り組み、経営の多角化・安定化を実現したモデル的な集落営農を展開しました。



水田の大区画化による大型機械の導入



米粉パンの製造・販売



ブルーベリーの作付け

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

新たに水稲直播栽培や促成アスパラガスの導入、米粉たい焼きの製造販売など新たな活動に取り組んでいます。

促成アスパラガス(根株養成)の導入は、青森県黒石市で根株栽培を見せてもらったのがきっかけです。青森でもできるなら原体地区でもできると思い始めました。1月10日頃から地元ホテルの契約販売や産直施設で販売しています。現在では、タラノメに変わり年間を通して運営を行うための重要な作物となっています。

米粉パンのほかに、新たに米粉たいやきの販売を開始したところ、かなりの人気商品となり

ました。現在、米粉を利用した餃子の皮とブルーベリーを用いたレーズンパンのような商品を開発しています。

営農状況	受賞時(平成16年)		現在(平成20年)	
	作物名	面積(ha)	作物名	面積(ha)
作付作物	水稲	18.4	水稲	21.6
	大豆	7.3	大豆	7.7
	ピーマン	0.5	ピーマン	0.6
	ブルーベリー	0.5	ブルーベリー	0.5
	タラノメ	0.2	アスパラガス	1.8
構成員数	74戸		74戸	

### ◆今後の取組について

今後も水稲を中心に大豆、ブルーベリー、アスパラガスの栽培に取り組んでいくとともに、価格が不安定な市場に経営の全てを依存することなく、価格が自由に設定できる加工部門と併せて、生産から加工・販売までの6次産業化を一層目指していきます。また、当ファームの経営を担う人物の育成に取り組んでいく予定です。



2007日本農業新聞一村逸品大賞  
金賞受賞(米ワッサン)



「米粉たいやき」販売施設(右)  
「米粉パン」加工・販売施設(左)

平成19年度  
農林水産  
大臣賞受賞

# 有限会社 米シスト庄内 (山形県庄内町)

## 国営かんがい排水事業 (最上川下流・最上川下流沿岸地区)

～更なるコスト低減のため乾田直播栽培を導入、米の輸出を展開～

### ◆受賞時の活動

用排水施設整備や区画整理により、経営規模拡大等が可能となったことから、新たな経営展開を目指す8戸の専業農家が集まり、平成10年に設立しました。

本法人は省力・低コスト生産を図る統一の栽培指針を策定し、これに基づき栽培した93haの米を法人が買い取り、特別栽培米「めだかのお米」としてレストラン・外食チェーン店等を中心に販売するなど、独自ブランドの直接販売体制を確立しました。

また、玄米の煎餅加工、ブルーベリーとイチジクの生産・加工等にも取り組み、経営の複合化を図りました。

また、玄米の煎餅加工、ブルーベリーとイチジクの生産・加工等にも取り組み、経営の複合化を図りました。



「めだかのお米」

独自ブランド名「めだかのお米」は、ほ場整備を契機に行っているメダカの保全活動から命名



ブルーベリーの導入

新規作物として導入したブルーベリーのバック栽培、ジャムに加工し販売

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

水稻の湛水直播栽培を実施してきましたが、平成20年度から更なるコスト削減を図るために乾田直播栽培(9.3ha)に取り組んでいます。

乾田直播栽培の播種機を3社から取り寄せて試験栽培をし、ようやく播種機を1機に絞り込んだところです。最近単収が飛躍的に伸びている北海道の麦栽培に興味を示し、播種機やブームプレイヤーによる防除について参考としています。

現在、首都圏百貨店とのタイアップによる米、ブルーベリー、イチジク、ラ・フランスの商品開発を行っています。米シスト庄内で栽培している米を贈答用に包装して販売することを検討しているところです。また、平成20年度か

ら新規需要米として輸出に組み込み、今年度は、オーストラリア、フランス、イギリスへと輸出先を拡大する予定で、作業受託面積を約9ha増加させました。さらに、園芸ではラ・フランス並びにブルーベリー及びソルトリーフのハウス栽培に取り組んでいます。

営農状況	受賞時(平成18年)		現在(平成20年)	
	作物名	面積(ha)	作物名	面積(ha)
作付作物	水稻	93.0	水稻	102.0
	ブルーベリー	0.3	ブルーベリー	0.5
	イチジク	0.3	イチジク	0.3
			ラ・フランス	0.2
		ソルトリーフ	0.1	
構成員数	8戸		8戸	

### ◆今後の取組について

経営と地域の発展のために、水稻の省力化・低コスト化と高収量・高品質が期待できる「乾田直播栽培」の技術確立とマニュアルの作成を目指しています。また、自社の加工製品について、インターネット販売や首都圏の百貨店を対象にした消費者ニーズにあった商品開発に取り組んでいきます。



乾田直播の水田 (歩けるほどの地耐力)



ソルトリーフの栽培パックに詰め販売(左下)

平成5年度  
構造改善  
局長賞受賞

とみやち  
**JA つがるにしきた富港ながいも部会** (青森県つがる市)  
**国営農地開発事業 (屏風山地区)**

～「砂丘地ながいも」の安定生産を目指し、  
作付面積、部会員数が増加～

◆受賞時の活動

農地開発事業を契機にながいも栽培に取り組み、堆肥の施用などによる地力維持増進対策の強化を図り、ウイルスフリー優良種苗の増殖・確保、畑地かんがい用水利用による栽培技術の向上や小麦・ねぎ等の輪作体系を確立し、ながいもの生産拡大、品質向上に努めてきました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

受賞後、現地検討会、青空教室などを積極的に開催するようになり、部会員の生産技術の向上とともに、「砂丘地ながいも」の安定した産地として市場評価が高まり、作付面積、部会員数ともに拡大しました。

さらに品質向上を図るため、平成19年度から県畑作園芸試験場が育成した園試6号の増殖を実施し、平成22年度産の出荷を目指しています。また、連作障害による病害虫防除対策として、土壤消毒機の導入や無人ヘリによる薬剤散布などに取り組んでいます。

営農状況	受賞時 (平成4年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	ながいも	28.0	ながいも	59.0
構成員数	37戸		52戸	



生育期のながいも



ながいもの洗浄・選別

◆今後の取組について

地域の重要な品目として、維持発展を続けるために緑肥を導入した土づくりや労働時間の短縮(植え付け、除草、収穫)とコスト低減に取り組む、栽培面積の拡大(70～100ha)を目指しています。

平成10年度  
構造改善  
局長賞受賞

**久喜沢野菜生産出荷組合** (秋田県能代市)  
**国営総合農地開発事業 (能代地区)**

～「みょうが」から「ねぎ」「山うど」の栽培へ移行～

◆受賞時の活動

地域の特産物であるみょうがの作期拡大を図るなど、産地の拡大、定着に向けた積極的な活動を展開し、みょうがに次ぐ作物としてキャベツ栽培、冬期間の所得確保を目指しアスパラガス導入による周年栽培体系の導入に取り組み、稲作との複合経営により安定した農業経営を実現しました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

平成16年頃からねぎの栽培に取り組み、作付面積を拡大しています。みょうがは平成19年頃から土壌病害で作付面積が減少したことから、ねぎ、山うどの栽培に移行しました。受賞当時は機械・施設を共同利用していましたが、機械を使用したいときに使用できないなどの理由から、個別利用が増えています。

営農状況	受賞時 (平成9年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	みょうが	51.5	みょうが	20.0
	キャベツ	4.4	キャベツ	2.0
	アスパラガス	5.9	アスパラガス	7.2
			ねぎ	4.5
			山うど	5.8
構成員数	21戸		21戸	



みょうがの栽培



アスパラガス(根株養成)の栽培

◆今後の取組について

能代市農業研究センターの指導のもとに、JAあきた白神及び能代市と連携して栽培技術の向上を図っていきます。

平成14年度  
農村振興  
局長賞受賞

## 土館地区農業生産組合（岩手県紫波町） 国営かんがい排水事業（山王海地区）

～活動規模を縮小しつつも、水稻育苗中心の活動を展開～

### ◆受賞時の活動

国営関連事業の大区画ほ場整備事業を契機に全受益農家が参加した生産組合を設立し、水稻・小麦のブロックローテーションによる集落ぐるみでの大規模水田農業経営を展開しました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

平成16年に「地域水田農業ビジョン」を各行政区単位で作成することになりました。

土館地区の4集落が個々に集落営農組合を立ち上げたため、これまで行ってきた作業受託、機械の共同利用などは、各集落営農組合が行うことになりました。現在は、活動規模を縮小して、育苗中心の活動を行っています。組合は存続していますが、作物の栽培、管理、販売等は、個々の農家が行っています。

営農状況	受賞時（平成13年）		現在（平成20年）
	作物名	面積 (ha)	
作付作物	水稻 小麦 そば	114.0 46.0 10.0	※現在は、水稻育苗中心の活動を行っています
構成員数	147戸		147戸



水稻育苗施設

### ◆今後の取組について

育苗中心の活動として、育苗施設の運営を行う後継者の育成確保に取り組んでいく予定です。

平成16年度  
農村振興  
局長賞受賞

## 夢いちご生産組合（宮城県山元町） 国営農地再編整備事業（山元地区）

～宮城県オリジナル品種「もういっこ」の栽培を開始～

### ◆受賞時の活動

国営農地再編整備事業により造成された畑地にいちごの大型ハウス、育苗施設などを導入し、高設ベンチ栽培・空中採苗による効率的な作業が可能となりました。夜冷育苗方式の導入等による早期出荷や収穫期間の拡大を図るとともに、観光農園の実施や直売所への出荷による販路拡大、研修生の受け入れによる担い手育成にも積極的に取り組んできました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

平成20年度から病気に強く硬度が高い宮城県オリジナル品種の「もういっこ」の栽培を開始し、栽培面積の3割を「とちおとめ」から切り替えました。

観光農園（いちごの摘み取り）については、新聞、インターネット、情報誌に積極的にPR活動を展開し、入園者数が増加したことから、観光農園の営業期間を2月～6月から11月～6月に期間を延長しました。

また、農産物直売所「夢いちごの郷」で開発したジャム、アイスクリームの材料としていちごを提供しています。

営農状況	受賞時（平成15年）		現在（平成20年）	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	いちご	3.7	いちご	3.7
構成員数	9戸		9戸	



高設ベンチ栽培



いちごの育苗

### ◆今後の取組について

従来から「仙台いちご」として市場の産地銘柄を確立しており、市場出荷を核にしながら「夢いちごの郷」での直売や観光農園（いちごの摘み取り）も展開してきましたが、今後は農産物加工や新たな販路の開拓に取り組んで行く予定です。

平成8年度  
全土連  
会長賞受賞

## JA 秋田やまもとキャベツ部会 (秋田県能代市) 国営総合農地開発事業 (能代地区)

～生産コスト削減を意識した減農薬・減化学肥料栽培を実施～

### ◆受賞時の活動

共同育苗・共同出荷によるコスト低減の実現、輪作体系による連作障害防止と地力増進への取り組み、農業機械・施設の共同利用等の活動を行い、キャベツ産地の安定と発展に努めてきました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

生産者の高齢化と軽量作物（みょうが、ねぎ）への転換や近年のキャベツ相場の不安定さから、構成員およびキャベツの作付面積が減少しました。脱会した生産者は、大豆などの産地づくり交付金対象作物の栽培に取り組んでいます。

キャベツの栽培面積はかなり縮小されましたが、小さいながらのメリットを生かし、消費者に求められる柔らかい品種へ転換しました。生産コスト削減を意識した減農薬減化学肥料栽培の取組を実施し、収量の安定化を図っています。

営農状況	受賞時 (平成7年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	キャベツ	25.0	キャベツ みょうが ねぎ	4.5 1.0 1.0
構成員数	50戸		14戸	



キャベツの栽培

### ◆今後の取組について

近隣のJA部会及び同地区内の他部会と積極的に交流を図り、安定した収入を得るため、キャベツだけに依存せず、他作物の導入による複合化を図っていく予定です。

平成9年度  
全土連  
会長賞受賞

## JA つがるにしきた富萇長ねぎ部会 (青森県つがる市) 国営農地開発事業 (屏風山地区)

～「氷温ねぎ」で輸入に負けない産地を～

### ◆受賞時の活動

農地開発事業を契機に長ねぎの栽培に取り組む、輪作体系の確立による連作障害の回避、選別・結束・荷造りまでの一貫した共同選別集出荷体制を確立し、長ねぎの産地形成に取り組んできました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

選別・結束・荷造りまでの一貫した共同選別作業は現在も続いてはいるものの、一時期の輸入ねぎによる価格の暴落などにより、作付面積は年々減少しています。平成13年度に導入した氷温施設を利用し、氷温処理により鮮度の保持や旨みが増した長ねぎを「氷温ねぎ」として、販売に取り組んでいます。



長ねぎの栽培



氷温施設

営農状況	受賞時 (平成8年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	長ねぎ	25.0	長ねぎ	23.0
構成員数	42戸		35戸	

### ◆今後の取組について

労働力の減少による作付面積の減少に歯止めをかけるため、共同選別集出荷体制の強化やねぎの収穫機械の導入に取り組んで行く予定です。

平成11年度  
全土連  
会長賞受賞

## 栗ノ木営農組合（青森県五戸町） 国営農地開発事業（五戸台地地区）

～工区内の施設の維持管理を実施～

### ◆受賞時の活動

造成された農地に対して、マニュアルプレッダーや堆肥盤等の共同利用による積極的な土づくりを行い、既存畑並の収量を確保しました。にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎなどを組み入れた輪作体系の確立により、連作障害が回避されるとともに品質の向上を図ってきました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

栗ノ木営農組合は、栗ノ木工区内の農地を賃貸借で利用する受益者で設立されましたが、土地利用者の交代により野菜農家の組合員の一部が果樹農家、畜産農家の組合員に交代したため、共同利用者が減少し、現在は、活動規模を縮小し、工区内の施設（堆肥盤、マニュアルプレッダー）の維持管理を行っています。

営農状況	受賞時（平成10年）		現在（平成20年）
	作物名	面積 (ha)	
作付作物	水稻	3.6	※現在は、堆肥盤、マニュアルプレッダーの維持管理を行っています
	ながいも	7.6	
	にんにく	4.0	
	ごぼう	1.2	
構成員数	7戸		12戸

### ◆今後の取組について

開発農地の有効活用による産地の維持のため、今後とも共同で導入した堆肥盤・マニュアルプレッダーの維持管理を行い、10a当たり3～5tの堆肥を毎年継続して投入していくこととしています。



マニュアルプレッダーによる堆肥散布

平成18年度  
全土連  
会長賞受賞

## 中沢土地利用生産組合（岩手県奥州市） 国営農地再編整備事業（いさわ南部地区）

～田植機を集約し、農業機械の共同利用をさらに推進～

### ◆受賞時の活動

国営農地再編整備事業による大区画は場整備を契機に、集落内農業の担い手組織として生産組合を設立しました。利用集積した集落内農地で、大型機械を導入して水稻直播栽培に取り組み、併せて大豆、飼料作物のブロックローテーションの確立により生産性が大幅に向上しました。平成16年に特定農業団体に認定され、集落内の作業受託に取り組んできました。

### ◆現在の活動及び受賞後の変化

平成19年に個人で所有していた田植機を処分し、組合で新たに田植機を購入しました。組合所有の農業機械の共同利用を推進し、計画的かつ効率的な利用を行っています。

営農状況	受賞時（平成17年）		現在（平成20年）	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	水稻	63.0	水稻	59.8
	水稻（直播）	7.0	水稻（直播）	2.8
	大豆	13.0	大豆	16.2
	飼料作物	9.0	飼料作物	19.2
	ピーマン	0.5	ピーマン	0.5
構成員数	32戸		33戸	

### ◆今後の取組について

農地を守るための後継者がいないことに不安を感じる農家が8割以上いることから、5年後の法人化に向けて取り組んでいく予定です。



大型コンバインによる収穫作業

編集  
後記

「もえび」へのご意見等、お待ちしております。また、「もえび」は東北農政局ホームページでもご覧になれます。<http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/sigenka/moebi/index.html>

表紙は、国営かんがい排水事業馬淵川沿岸地区内で栽培している促成アスパラガスの根株堀取り作業です。堀り取った根株をハウスに伏せ込み栽培し、12月からアスパラガスを出荷します。今年もおいしいアスパラガスができることを期待しています。